

**佐伯市地域福祉計画・佐伯市地域福祉活動計画
令和5年度の評価結果（概要）**

令和6年8月

◆佐伯市地域福祉計画・佐伯地域福祉活動計画の令和5年度実施報告 評価一覧表

基本目標	取組の基本方針	佐伯市地域福祉計画(佐伯市)										佐伯市地域福祉活動計画(佐伯市社会福祉協議会)				
		No.	施策名	担当部署	R1評価	R2評価	R3評価	R4評価	R5評価	No.	事業名	R1評価	R2評価	R3評価	R4評価	R5評価
1 やさしい心と人づくり	1 地域の交流・ふれあいの促進	1	「さいきの茶の間」の推進	高齢者福祉課	A	A	B	B	A	1	「ふれあい・いきいきサロン」の推進(市受託事業)	A	A	A	A	A
		2	「ふれあい・いきいきサロン」の推進	健康増進課	A	B	B	B	A	2	子育てサロンの運営支援	A	A	B	B	B
		3	敬老会への支援	高齢者福祉課	B	B	B	B	A	3	子ども食堂立ち上げ・運営支援	B	B	B	B	B
		4	障がい者の交流の場づくりへの支援	障がい福祉課	A	B	B	B	A	4	児童館・放課後児童クラブの運営(指定管理事業)	A	B	B	B	B
		5	地域子育て支援拠点や放課後児童クラブの充実・強化	こども福祉課	A	A	A	A	A	5	地域行事への支援	A	A	A	A	A
		6	子どもの居場所づくりに対する支援	こども福祉課	A	A	A	A	A							
		7	地域とともにある学校づくりの推進	学校教育課	A	B	B	B	A							
		8	地域行事への支援	全庁	A	A	A	A	A							
	2 福祉意識の醸成	9	「佐伯市人権施策基本計画」「佐伯市人権施策基本計画に係る実施計画」の推進	福祉保健企画課	B	A	A	A	A	6	社協ちびっこフェスティバルの開催	A	B	A	A	A
		10	人権・同和教育研究大会等の開催	学校教育課・社会教育課	B	B	B	B	A	7	福祉体験プログラムの実施	A	A	B	B	A
		11	人権学習会の開催	社会教育課	B	B	B	B	B	8	福祉スクールの開催	A	A	A	A	A
		12	学校における人権教育の推進	学校教育課	B	B	B	B	A	9	社会福祉大会の開催	-	B	-	A	B
	3 ボランティア・NPO等の育成	13	学校等での福祉体験教室の開催支援	障がい福祉課	A	B	B	B	A							
		14	ボランティア養成講座の開催	障がい福祉課	A	A	A	A	A	10	ボランティアの活動啓発・支援	A	B	A	B	B
		15	ボランティア・NPOに関する広報	地域振興課	A	C	C	C	C	11	生活支援ボランティア講座の開催(地域づくり大作戦)	B	B	B	A	B
		16	ボランティア・NPOに関する講演会・研修会の開催	地域振興課	B	C	D	D	D	12	ボランティア手帳の発行	A	C	B	B	B
		17	ボランティア・NPOの活動拠点の充実	地域振興課	B	C	C	C	B	13	NPO、企業ボランティア団体との協働の推進	B	C	B	C	C
		18	「佐伯市まちづくり交流倶楽部」の充実	地域振興課	B	C	D	C	B	14	夏のボランティア体験事業	A	D	B	B	B
		19	市民と市による協働の推進	地域振興課	A	A	A	A	A	15	各種ボランティア講座の開催	A	A	B	A	A
		20	市民参加制度の条例の制定	コミュニティ創生課	D	C	D	A	-	16	ボランティア団体の支援	A	B	B	B	B
4 関係団体の活動促進	21	社会福祉協議会の活動支援	福祉保健企画課	A	A	A	A	A	17	民生委員児童委員会の支援	A	A	A	A	A	
	22	民生委員児童委員協議会の活動支援	社会福祉課	A	A	A	A	A	18	ボランティア連絡協議会の支援	A	B	B	B	B	
	23	老人クラブの活動支援	高齢者福祉課	B	B	B	B	B	19	地区社協の活動支援	A	A	A	A	A	
	24	障がい者団体の活動支援	障がい福祉課	A	B	B	B	B	20	老人クラブ連合会の支援(市受託事業)	A	B	B	A	A	
	25	母親クラブの活動支援	こども福祉課	A	A	A	A	A								
	26	健康づくり地区組織の活動支援	健康増進課	A	A	B	B	B								
2 支えあう地域づくり	1 地域のネットワークづくりと支えあい活動の促進	27	支えあいの地域ネットワークの推進	社会福祉課	A	A	A	A	A	21	地域福祉ネットワーク事業の推進	A	B	B	A	A
		28	避難行動要支援者名簿の作成	社会福祉課	A	A	B	A	A	22	地域づくり大作戦(市受託事業:生活支援体制整備事業)	B	B	B	A	A
		29	認知症サポーターの育成	高齢者福祉課	A	B	B	A	A	23	フードバンクおおいの協力	A	A	A	A	A
		30	徘徊SOSネットワークの見直し	高齢者福祉課	B	B	B	A	A	24	共同募金委員会の運営	A	A	A	A	A
		31	高齢者見守りネットワークの活動推進	高齢者福祉課	B	B	B	B	B							
	2 活動拠点の確保	32	支えあう地域づくりの促進(生活支援体制整備の拡充)	高齢者福祉課	B	B	B	B	A							
		33	要保護児童対策に関わるネットワークの強化	こども福祉課	A	A	A	A	A							
		34	コミュニティ組織づくりの支援	地域振興課・コミュニティ創生課	A	B	A	A	A							
		35	過疎高齢化集落対策の推進	地域振興課・コミュニティ創生課	B	B	A	A	A							
		36	さい城山(しろやま)桜(さくら)ホールの利用促進	地域振興課	B	B	C	C	B	25	社会福祉センター・地域福祉センターの運営(指定管理)	A	A	A	A	A
		37	地域子育て支援拠点の支援・充実	こども福祉課	A	A	A	A	A	26	地域の寄り合い所の確保・運営支援(地域づくり大作戦)	B	A	A	A	A
		38	公民館講座の減免措置	社会教育課	B	B	B	B	B	27	ボランティアの拠点の確保	A	A	A	A	A
		39	指定管理者への指導監督	全庁	B	B	B	B	A							
		40	空き家や市有財産の有効活用	コミュニティ創生課・行政マネジメント課	B	B	B	B	B							
		1 情報提供の充実	41	広報等による情報提供	福祉保健課	A	A	A	A	A	28	社協だよりによる情報提供	A	A	A	A
42	出前講座・説明会等の開催		高齢者福祉課・障がい福祉課	A	A	A	A	A	29	ホームページ・SNS等による情報発信	A	A	A	A	A	
43	最新の地域資源マップ情報の提供		福祉保健課	A	A	A	B	A	30	ケーブルテレビによる情報発信	A	A	A	A	A	
44	障がい者に配慮した情報提供の推進		障がい福祉課・秘書広報課	A	B	A	A	A	31	地域資源マップの作製(地域づくり大作戦)	A	A	A	A	A	
2 相談支援体制の充実	45	保健福祉全般に関わる相談支援体制の整備・充実	高齢者福祉課・障がい福祉課	A	A	A	A	A	32	「ひとしずくちゃん」による広報	A	A	A	A	A	
	46	高齢者に関わる相談支援体制の充実(佐伯市地域包括支援センター)	高齢者福祉課	B	A	A	B	B	33	弁護士による無料法律相談会	A	A	A	A	A	
	47	障がい者に関わる相談支援体制の充実	障がい福祉課	A	A	A	A	A	34	民生委員による心配ごと相談会	A	A	A	A	A	
	48	児童に関わる相談支援体制の充実	こども福祉課	A	A	A	A	A	35	生活困窮者自立支援事業(市受託事業)	A	A	A	A	A	
	49	健康づくりに関わる相談支援体制の充実	健康増進課	A	A	A	A	B	36	総合相談事業	A	A	A	A	A	
								37	地域包括支援センターランチ(市受託事業)	A	A	-	-	-		

基本目標	取組の基本方針	No.	施策名	担当部署	R1評価	R2評価	R3評価	R4評価	R5評価	No.	事業名	R1評価	R2評価	R3評価	R4評価	R5評価	
3 サービスを利用しやすいしくみづくり		50	生活困窮者に関わる相談支援体制の充実	社会福祉課	B	A	A	A	A	38	資金貸付事業	A	A	A	A	A	
		51	人権に関する相談支援体制の充実	福祉保健企画課	B	B	A	A	A								
		52	教育相談支援体制の充実	学校教育課	B	B	B	B	A								
	3 福祉サービスや健康づくり事業の充実		53	高齢者福祉サービスの充実	高齢者福祉課	B	B	B	B	B	39	高齢者福祉サービスの充実	C	B	A	A	B
			54	障がい福祉サービスの充実	障がい福祉課	A	A	A	A	A	40	独居世帯への相談・見守り・終活等の支援	C	C	C	C	C
			55	子育て支援サービスの充実	こども福祉課	A	A	A	A	A	41	毎日型配食サービス	A	A	A	B	A
			56	健康づくり事業の充実	健康増進課	A	B	B	B	B	42	障がい福祉サービスの充実	B	B	B	B	B
			57	こころの健康づくりの推進	障がい福祉課	B	B	B	A	A	43	子育て支援サービスの充実	A	A	B	A	A
			44	健康づくり事業の充実							44	健康づくり事業の充実	A	A	A	A	A
	4 権利擁護体制の充実		58	障がい福祉サービス利用に関わる権利擁護体制の整備	障がい福祉課	A	A	A	A	A	45	日常生活自立支援事業(県受託事業)	A	A	A	A	A
			59	高齢者に対する権利擁護対策の充実(佐伯市地域包括支援センター権利擁護業務)	高齢者福祉課	B	B	B	B	B	46	成年後見制度の利用促進	A	A	A	A	A
			60	成年後見制度の利用支援	高齢者福祉課・障がい福祉課	B	A	A	B	A							
61			悪質商法等に関する情報提供の推進	市民課	B	B	B	B	B								
62			悪質商法等に関する相談窓口の充実	市民課	B	B	B	B	B								
4 安全・安心なまちづくり	1 地域ぐるみの防犯・防災対策の推進	63	佐伯市避難行動要支援者避難支援プラン(個別計画)の推進	社会福祉課	C	C	C	B	B	47	災害ボランティアセンターの設置・運営	A	A	A	A	A	
		64	地域防災力の強化	防災危機管理課	B	B	B	B	B	48	地域防災講座への講師派遣	A	A	A	A	A	
		65	消防団員の更なる入団促進と消防団協力事業所表示制度の拡充	消防総務課	B	B	B	B	B	49	防災教育プログラム事業	A	A	A	A	A	
		66	防災情報システムの充実	防災危機管理課	B	B	B	B	B	50	災害ボランティアネットワーク協議会の運営	A	A	B	A	A	
		67	高齢者の見守り活動の促進	高齢者福祉課	B	B	B	B	B	51	災害に対処できる職員の育成	B	B	B	A	B	
		68	子どもの見守り活動の促進	学校教育課・社会教育課・こども福祉課	A	A	A	A	A	52	防災標語づくり	B	A	A	A	A	
										53	緊急情報キット事業	A	A	A	A	A	
										54	高齢者や子どもの見守り活動の推進	B	B	B	B	B	
	2 誰にでもやさしいまちづくりの推進		69	公共交通網の確保及び生活交通体系の構築の検討	地域振興課	B	B	B	B	B	55	新たな移送サービスの検討	B	B	B	B	A
			70	道路等のバリアフリー化	建設部	B	B	B	B	B							
			71	障がい者に配慮した公共施設の点検整備	障がい福祉課	B	A	B	B	B							
			72	高齢者や障がい者の住宅改修への支援	高齢者福祉課・障がい福祉課	B	B	B	B	B							
			73	空家等の「予防」「適切な管理」の推進	コミュニティ創生課	B	B	B	A	A							
			74	犯罪被害者等への支援	福祉保健企画課	B	B	A	A	A							
			75	犯罪をした者等への社会復帰支援の検討	社会福祉課	B	B	B	B	A							

施策評価調書【令和5年度実施事業】

基本目標	計画頁	評価
1 やさしい心と人づくり	P47~P57	A

関係課名	【佐伯市】全庁、高齢者福祉課、健康増進課、障がい福祉課、こども福祉課、福祉保健企画課、社会福祉課、地域振興課、コミュニティ創生課、学校教育課、社会教育課 【社会福祉協議会】地域福祉課
------	--

【1 基本目標の基本的な考え方】

同じ地域に住む人同士が知り合い、助け合う意識は、日常的なふれあいの中から生まれるものが多いため、地域の中で、住民同士が自然に交流できる「寄り場」づくりや、日ごろからのあいさつ・声かけ等による交流・ふれあいの促進を図ります。

【2 基本目標を構成する施策・事業の評価結果】

取組の基本方針	佐伯市					佐伯市社会福祉協議会					総合評価
	平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1 地域の交流・ふれあいの促進	4.00	8				3.40	2	3			A
2 福祉意識の醸成	3.80	4	1			3.75	3	1			A
3 ボランティア・NPO等の育成	2.83	2	2	1	1	3.00	1	5	1		B
4 関係団体の活動促進	3.50	3	3			3.75	3	1			A
合計	3.56	17	6	1	1	3.40	9	10	1		A

【評価区分】

【総合評価基準】

A	4点	順調に推移	平均点3.25以上
B	3点	概ね順調に推移	平均点2.5以上3.25未満
C	2点	やや不足していた	平均点1.75以上2.5未満
D	1点	不足していた	平均点1.75未満

【3 取組の基本方針を構成する主な取組の評価結果】

○佐伯市

No.	施策名	担当部署	令和5年度の具体的な取組	効果と反省	評価	備考
1	「さいきの茶の間」の推進	高齢者福祉課	新たに5か所の茶の間が開設し、3か所が休止したため、3月末時点で、60か所が実施しています。 また、介護予防活動として、希望団体へ出前教室を実施しました。教室の中でフレイルチェックシートを活用し、運動・栄養・口腔機能等について優先的に専門職の派遣が必要な団体へ医療専門職の派遣を行いました。	地域の交流の場ができる事で、高齢者の介護予防・生きがいづくりの場が増加しました。 今後も、介護予防に資する活動をさらに地域に浸透させるよう活動団体の増加に努めます。また、フレイルチェックの個人結果をもとに、必要に応じて専門職の派遣を行っていきます。 助成要件についても検討を継続していきます。	A	
5	地域子育て支援拠点や放課後児童クラブの充実・強化	こども福祉課	子育て中の親子が気軽に集える交流の場づくりやきめ細かな子育ての相談体制を引き続き実施できました。市内の地域子育て支援拠点と児童館が協同し、さいき城山桜ホールで実施されたイベントでパネル展示や子ども向けのゲーム等を行いました。 地域子育て支援拠点 7カ所 延べ利用者数 26,598人(R6.3.31) 放課後児童クラブ 24クラブ 登録児童数 861人(R5.4.1)	基本的に現計画を踏襲するとともに、他の課とも協力して、活動についての周知を図り、利用者の増加に努めていきます。	A	
17	ボランティア・NPOの活動拠点の充実	地域振興課	まちづくりセンター「よろうや仲町」の閉館後は、さいき城山桜ホールの交流スペースに活動拠点を移し、打合せや会議に利用するなど、供用を開始しています。 まちづくり交流倶楽部に対して現在の活動状況、桜ホールの利用状況、今後の利用希望等についてのアンケート調査を実施した。 また、アンケート調査結果を踏まえた意見交換会を実施し、6団体の参加があった。それぞれの活動やその情報発信、活動拠点についての意見交換がなされ、まちづくり交流倶楽部の活動を継続させていく方針が確認された。	交流スペースは、市民団体等に限らず、多くの市民も利用しています。 ※基本目標2 36さいき城山(しろやま)桜(さくら)ホールの利用促進と同様です。	B	

○佐伯市社会福祉協議会

No.	事業名	担当部署	令和5年度の具体的な取組	効果と反省	評価	備考
1	「ふれあい・いきいきサロン」の推進(市受託事業)	地域福祉課	<p>サロンの効果と参加者の健康状態を把握するため、体力測定の実施・基本チェックリストを活用し、検証を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主型サロンへ体力測定の実施を積極的に促しました。(年2回) ・実施後の個々の課題抽出の実施。 ・自宅での体力づくりについて個別指導。 <p>【体力測定実施人数】 支援型842名、自主型 69名</p>	<p>全体的に運動機能、口腔機能、認知機能、気分の落ち込みにチェックが多い状況は変わりませんが、感染対策を行いながらサロンは活動9割以上の再開となりました。</p> <p>体力測定の数値の低下も少なくなり、体力測定実施後のフィードバックにより、個人の意識向上に繋がっています。</p> <p>引き続き、サロン継続支援とともに、フレイル予防を目的とした内容の見直し等を行います。</p>	A	
			<p>自主型サロン協力者研修会を年間2回、開催しました。通いの場の役割、廃用予防・認知症予防の理解、サロンで活用できるレクリエーション等について学習しました。</p> <p>サロン支援員研修会を年間3回、お助け隊実技研修会を年間4回、開催しました。</p> <p>今年度は、これまでの学習内容について復習を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動機能(廃用予防)の技術研修 ・「血圧」、「口腔機能」の講話 <p>高齢者に生じやすい日常生活上の課題や改善点、重点的に取り組むべき体操や注意点などについて、再学習を実施。</p>	<p>今年度は100名近くの参加者があり、参加者の意欲の高さを再認識できました。サロン運営に関しては、「参加者減少」「担い手不足」「人間関係の希薄化」が課題となっていますが、サロン自体では解決できない課題となっています。今回の研修では「今、楽しくサロンへ行く」ことが大切であることを参加者が認識し、前向きに取り組む意識が持てました。</p> <p>研修会終了後の専門職による再学習・実地支援等を継続的に行い、学習内容の定着に努め、サロン活動の活性化、高齢者のフレイル予防に重点をおき、進めていきます。</p>		
			<p>レクリエーション用具の冊子を活用し、貸し出しを行いました。</p>	<p>引き続き、冊子を使用しての説明や軽量で持ち運びしやすいレクリエーション用具の整備を進めていきます。</p>		
			<p>自主型サロン協力者研修会(100名)、サロン支援員研修会(52名)にて、事後アンケートを実施。</p>	<p>集計結果を参考に、開催場所や頻度等の見直しを行い、高齢者のフレイル予防に対する効果的なサロン活動を目指します。また、多職種との連携を図りながら、研修内容の充実に努めていきます。</p>		

7	福祉体験プログラムの実施	地域福祉課	<p>市内の小中学校に福祉体験プログラムをPRし、今年度は16回実施しました。福祉体験の内容については、車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験、点字体験、盲導犬体験、手話体験、フラワーアレンジメント、車いすバスケット、福祉講話を行いました。今年度、新たに『ボッチャ』をプログラムに追加。冊子を作り替え、見やすく工夫しました。</p>	<p>コロナで自粛をしていた学校も徐々に再開。鶴見で実施した車いすバスケットは、実際に障がいを抱える方がプレーする姿を目の前にし、障害に対する意識をより深めるきっかけとなりました。次年度は、地域で補助を担ってもらえるような人材(ボランティア)育成の仕組みづくりができないか検討していきたいです。</p>	A	
---	--------------	-------	--	---	---	--

施策評価調書【令和5年度実施事業】

基本目標	計画頁	評価
2 支えあう地域づくり	P58～P62	A

関係課名	【佐伯市】全庁、社会福祉課、防災危機管理課、高齢者福祉課、子ども福祉課、地域振興課、コミュニティ創生課、行政マネジメント課、社会教育課 【社会福祉協議会】地域福祉課
------	---

【1 基本目標の基本的な考え方】

地域で手助けを必要としている様々な人たちを支えるためには、市民や関係団体が、個々の活動を進めるとともに、身近な地域単位で密接につながることが大切です。そのため、関係者が連携して支援を要する人を把握し、協力して支援していくネットワークづくりや、地域単位の支えあい活動の促進に努めます。

【2 基本目標を構成する施策・事業の評価結果】

取組の基本方針	佐伯市					佐伯市社会福祉協議会					総合評価
	平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1 地域のネットワークづくりと支えあい活動の促進	3.89	8	1			4.00	4				A
2 活動拠点の確保	3.40	2	3			4.00	3				A
合計	3.71	10	4			4.00	7				A

【評価区分】

【総合評価基準】

A	4点	順調に推移	平均点3.25以上
B	3点	概ね順調に推移	平均点2.5以上3.25未満
C	2点	やや不足していた	平均点1.75以上2.5未満
D	1点	不足していた	平均点1.75未満

【3 取組の基本方針を構成する主な取組の評価結果】

○佐伯市

No.	施策名	担当部署	令和5年度の具体的な取組	効果と反省	評価	備考
28	避難行動要支援者名簿の作成	社会福祉課	災害時避難行動要支援者については4半期に1度名簿情報を更新しており、新規対象者や未返信者には同意書を発送し、同意を得た1,208人分の名簿を区長及び民生委員に提供しました。また、消防署に加え、佐伯警察署にも名簿を提供しました。	避難行動要支援者名簿の提供に関する同意書を発送し、令和5年5月末時点で返信が無かった約192名に対して訪問や施設入所者の確認等を行いました。その後3回の名簿情報更新を経て、新たに対象となった方も含め令和5年度末時点で同意・不同意の意思確認ができていない方は、237人となっています。	A	
29	認知症サポーターの育成	高齢者福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座28回（市役所6回・出張開催22回）、計725人が受講しました。ステップアップ講座5回（出張開催）は、47人が受講しました。地域で認知症高齢者を見守り、支える取組のために、キャラバンメイトが認知症検索模擬訓練のなかで地域の住民向けに講和も実施しています。 ・今年度は、SOSネットワークに協力機関として登録された佐伯市薬剤師会の事業所向けにも開催しました。また、小学校・中学校・高校にてサポーター養成講座も開催し若い世代向けにもサポーター育成が出来ました。さらに、高校生にはアルツハイマー等認知症事業の啓発のためのイベントにも参加してもらっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、定例開催が安定的に開催され（定例開催6回、参加者計58人）、薬剤師会事業所向けも計9人の参加で、新たな分野向けに養成が出来ました。生活支援体制整備事業との連携で、有償ボランティア向けに認知症サポーター養成講座やステップアップ講座も実施出来たことで、支援内容の充実に繋がりました。 ・今後は計画的に小学校・中学校への養成講座実施に向けて取組みます。若い世代へのサポーター養成講座は今後も毎年続けて行うことが効果的であると考えます。講師となるキャラバンメイトの養成数が不足していることが課題です。 	A	
34	コミュニティ組織づくりの支援	地域振興課 コミュニティ創生課	【地域振興課】 コミュニティ助成事業は3地区に合計480万円を交付し、コミュニティ活動の支援を行いました。また、佐伯創生推進総合対策事業として、各地域の課題解決等を支援するため補助金を交付しました。	【地域振興課】 今後もコミュニティ強化など地域づくりに繋がる事業を積極的に支援していきます。	A	

○佐伯市社会福祉協議会

No.	事業名	担当部署	令和5年度の具体的な取組	効果と反省	評価	備考
			<p>20協議体に17名の2層生活支援コーディネーター(以下、SC)を配置。担当者会議内で地域課題の共有を目的に、グループワークや、コーディネーター力向上研修会を実施し、SCの資質向上に努めました。</p> <p>・地域介護支援連絡会議に参加し、SCの取り組みや活動への理解と関係性を深めました。圏域ごとの地域課題やあったらいい社会資源について、SCと介護支援専門員による『ワークショップ』を実施しました。</p>	<p>社会資源一覧表を更新し、社協のHPに掲載し、必要とする方への情報提供を行いました。介護支援専門員の事業所や病院連携室に、SCの紹介チラシや有償ボラのチラシ等を配布し、他機関連携に努めました。次年度は、社協だよりを活用し、さらなる取り組み周知を行います。</p>		
			<p>・佐伯エリア 大入島 サポーター30名、利用実績 0件 木立 サポーター 4名、利用実績11件 青山 サポーター21名、利用実績 1件 西上浦 サポーター71名、利用実績35件 ※西上浦コミュニティ協議会(新)、車地区お助け隊の合計</p>	<p>・佐伯エリア 木立地区では、コミュニティ会議をきっかけに地域の課題を把握したところ、全域的に支援できる団体の必要性を感じ立ち上げをしたいという声が上がってきました。現在、中野河内限定の既存団体があるため、コミュニティを絡めながら、全域的に支援できる団体へと展開していけたらと考えています。次年度もコミュニティに参加し、情報の共有を行います。</p>		
			<p>・上浦支部 サポーター12名、利用実績10件</p>	<p>・上浦支部 令和5年6月に発足し、草刈りや草取り、見守りを兼ねたゴミ捨ての支援を中心に活動を行いました。来年度からは、チームオレンジ養成講座を行い、さらなる活動のステップアップを目指します。</p>		
			<p>・弥生支部 「床木とことこ隊」21名、利用実績 7件 「ちょこちょこマーチ」14名、利用実績215件</p>	<p>・弥生支部 ちょこちょこマーチが3年目を迎え、定期の依頼も増え活動数も増えてきた。新たに地域での料理教室など、地域づくり活動の取り組みも始めました。</p>		

<p>・本匠支部 サポーター37名、利用実績45件</p>	<p>・本匠支部 (みずぐるま) 発足から5年経ち、令和5年5月に、新たに女性部が設置され、これまでの草刈り支援に加え、生活支援サービスも加わりました。今後は多様なニーズが予測されます。引き続き、啓発と周知を行います。</p>
<p>・字目支部 サポーター29名、利用実績23件</p>	<p>・字目支部 令和元年7月に発足し、草刈や家の掃除や窓ふきが主な活動となっています。最近では高齢者の見守り支援の相談や依頼が多くなっていることから、今後は、サポーターの認知症研修などを行い、ニーズに対応した活動ができるように検討していきたいです。</p>
<p>・直川地区 住民による設置、利用実績73件</p>	<p>・直川支部 (見守り兼買い物支援) 令和4年6月より横川地区で実施。令和5年度は仁田原、赤木地区2地区拡大。計3地区で実施。見守りを行うことで対象者の方から喜ばれている事業。今後直川全域で行う予定。 (移動支援) モデル地区に指定され、活動を始めました。民生委員の方にもお願いし対象者の選出。令和6年6月以降に運転ボランティアが支援者を乗せて実証実験が行われる予定。</p>

22	地域づくり大作戦(市受託事業: 生活支援体制整備事業)	地域福祉課	<p>・鶴見支部 サポーター33名、利用実績67件</p>	<p>・鶴見支部 (ハッピーみまもり隊) お散歩ついでに地域で見守りが必要な高齢者宅を訪問。対象者の把握をするために毎月定例会を開催しメンバーで情報共有をしています。無理をせず、楽しみながらできる活動を目指します。 (御用聞き支援事業) 既存の仕組み(大島買い物サービス)を応用し、地域の実情に置き換え試験的に実施しました。モデルに中越地域を選定。区長会、企業、地域在住の支援者、有償ボランティアとの連携で買い物の支援だけではなく、困りごとの相談対応や必要なサービス・関係機関への繋ぎなどの幅広い支援事業を目指します。</p>	A
			<p>・米水津支部 サポーター45名、利用実績73件</p>	<p>・米水津支部 (たすけ愛隊) 支援の件数が4月～10月に集中します。主に草刈・剪定作業です。最近は家事支援も増えてきています。 (山桜の会) 週に一度一人暮らし、高齢者夫婦のお宅を散歩ついでに声掛けを行う活動です。包括からの安否確認の依頼もあります。</p>	
			<p>・蒲江支部 畑野浦 サポーター10名、利用実績40件 竹野浦河内 サポーター 3名、利用実績 8件</p>	<p>・蒲江支部 2月に新たな団体が立ち上がり、包括あまべと協力して初動から関りを深めました。しばらくは包括あまべから依頼されたニーズ対応をしながら、徐々に範囲拡大する予定です。ヘルパー経験のある方が代表者となり、専門的な知識を活かしながら活動していきます。また、既存団体(竹野浦カントリー支援隊)の支援拡大(生活支援)も実現しました。</p>	

<p>民生委員・児童委員、主任児童委員から地域の困りごとについて相談を受けた。</p>	<p>今まで以上に地域に出向き住民の声に耳を傾ける機会を設けていきます。</p>
<p>地域ケア会議、ケアマネジメント支援会議に出席し困りごとの把握に努め、必要に応じてケアマネジャーと同行支援をしました。 SC協議でそれぞれの地域課題の把握をし検討をしました。</p>	<p>地域ケア会議、ケアマネジメント支援会議を通じて地域課題の把握に努め、SC全体で共有が必要な課題については検討をしていきます。</p>
<p>傾聴ボランティアの支援者の高齢化により、上手くマッチングが行えなかったこと、また、昨年度養成したちょこっとボラの支援者への対応もできず大きな課題として残りました。次年度は、この課題を踏まえ養成講座を行いしっかりと体制構築に努めます。</p>	<p>傾聴ボランティア、ちょこっとボラの養成講座を行い、しっかりとマッチングができるよう体制を整えます。また、有償ボランティア団体の交流会や視察研修を行います。</p>
<p>地域介護支援連絡会において、ケアマネジャーと必要な資源について共有。その後、地域の課題解決に結びつく資源の開発へ向けて取組みを行いました。 移動サービスの課題解決に向け、スーパーバイザー派遣事業にモデル地区として弥生、直川が取組を行い、それぞれの地区の2層が支援団体と一緒にプログラムへ参加しました。</p>	<p>次年度も引き続きケアマネとの関係性の構築、移動支援事業の関りに努めます。</p>
<p>輝 プロデュース(佐伯エリア) ・「輝サポーター」の発掘&登録/集いの場に伺い、趣味や特技を持つ人材把握に取り組みました。 ・社協広報誌に輝サポーターの募集を呼びかけました。 ・3月末現在、31名の登録があります。 ・年2回の交流会を開催。身近な課題の抽出→「輝サポーター」として可能な支援についてワークを行う。なお、欠席者へ報告書と令和6年度の取組みを資料とし送付しました。</p>	<p>・地域のニーズ把握と『輝 サポーター』とのマッチング/地域活性化や課題の解決等に結びつけるプロセスを目指します。 ・マッチング相手の把握に努め、輝 サポーターの皆さまが地域の集いの場や個人等と繋がることで、お互いに輝ける仕組み作りを行っていきます。 ・施設、学校等へと幅広い事業周知、関係性の構築に取り組みます。 ・交流会(年間3回予定)の活用/地域住民主体で協議を重ねていきます。</p>

	<p>・ケアマネジャーとのワークショップを実施し、情報共有を図りました。</p> <p>・市内各医療機関の連携室を訪問、障がい者支援センター相談員の連絡会へ参加し生活支援コーディネーターの役割と社会資源の紹介、有償ボランティア団体の一覧表を作成し、提供しました。</p> <p>・大分県リハビリテーション専門職団体協議会が主催する研修会へ参加。リハ職へ佐伯市SCの取組みを紹介しました。</p>	<p>ケアマネジャーより直接社会資源に関する問い合わせが増えてきました。また、これまで関わりのなかった医療機関の連携室より、患者の退院後の生活支援について問い合わせをいただくようになりました。</p>	
	<p>・新たな地域コミュニティづくりにおけた、住民座談会の支援</p> <p>市コミュニティ創生課と連携し、第1、2期エリアの8地区に加え、新たに4地区の(下堅田、木立、上浦、本匠)「話す会・考える会」に出席し、ワークショップの支援として、進行や助言役を担いました。</p>	<p>次年度も引き続き、地域の課題解決に向けた打ち合わせに参加し、生活課題の把握や住民主体のネットワークづくりを推進していきます。また、新たなエリア選定が決定すれば、同様の支援を検討します。</p>	
	<p>小地域に居場所の立ち上げを目的に、空き家や学校の空き教室を利用できないか検討したが、右記の理由からなかなか進めることができていません。</p>	<p>空き家を使用する際に持ち主の特定が難しい場合があります。また、ライフラインが通っていないため復旧、使用料の支払い問題が発生し、実際に使用するとなるとさまざまな課題があります。また、学校の空き教室使用に関しては、防犯の面から部外者が自由に出入りすることが課題となっています。</p>	
	<p>鶴見の拠点(鶴見支部)</p> <p>地域住民の交流と親睦、介護予防や生きがいづくりを目的に介護予防活動を実施しました。</p> <p>延べ実施回数 40回 延べ利用者数 315名 延べ協力者数 223名</p>	<p>体操教室だけではなく、季節行事を取り入れたり、地域ボランティアとの交流など、活動内容の工夫をしました。また、地域の公民館で拠点活動発表を行い、介護予防への自主的な取り組みや意欲の向上に繋がるとともに、住民の向けて広くアナウンスすることができました。</p>	

26	地域の寄り合い所の確保・運営支援(地域づくり大作戦)	地域福祉課	<p>ひとつむぎ(本匠支部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症予防と認知症の理解促進のため、認知症をテーマにした体操教室(年7回)を実施しました。地域住民がサポーターとなり、それぞれが役割を持って実施しました。講師による認知症の講話を聴き、予防のために簡単にできる体操(拮抗運動)等を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域関係なく利用でき、広範囲での交流と独居高齢者が会の終了後に楽しく談笑する姿も見られ、住民が集う居場所としての役割も担っています。 	A
			<p>直川ふれあいハウス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧幼稚園舎を活用した多世代交流の居場所として、今年度は中学生と地域高齢者の交流が行われました。毎回、中学生がプレゼンをし、おしゃべりや介護予防のためのゲーム行うなど多世代の交流の場となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者は、なかなか関わるできない中学生との交流を楽しみに参加しています。少しでも多くの方に参加してもらえよう、どのような呼びかけを行ったらよいか中学生と考えていきます。 	
			<p>佐伯地区「地域力アップ」懇談会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐伯地区の福祉関係者を中心に、地域課題の把握や支え合い活動等について意見交換を行いました。 ・令和4年度より地域代表を中心に結成された『佐伯校区やっちゃん会』により、多世代交流をテーマにした「わくわくバザー」を大手前広場にて開催しています。 ・新たな取り組みして、日本文理大付属高等学校の生徒との交流を行い、「eスポーツ」を体験し、新たな交流が生まれています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バザーで得た収益を地域活動や小学校へ寄付することで「やっちゃん会」の地域での認知度も少しずつ上がってきています。地域力の向上を目指し、会員増員および現会員の士気を高める取り組みとして、ハッピーの購入を計画しています。また、イベント(バザー)にこだわらず、地域の課題に沿った取り組みを支援していけたらと考えています。 ・地域の有志からは「小地域ごとの配食サービス実施への検討」の声も挙がっております。やっちゃん会メンバーも絡めた取り組みを行うことで、支援の幅が広がっていくのではないかと考えています。 	

施策評価調書【令和5年度実施事業】

基本目標	計画頁	評価
3 サービスを利用しやすいしくみづくり	P63～P74	A

関係課名	【佐伯市】福祉保健部、障がい福祉課、秘書広報課、高齢者福祉課、こども福祉課、健康増進課、社会福祉課、福祉保健企画課、市民課、学校教育課 【社会福祉協議会】地域福祉課
------	---

【1 基本目標の基本的な考え方】

すべての市民が、福祉制度やサービス、地域の福祉活動等についての情報を、必要な時に、いつでも入手できるよう、様々な手段や機会を活用して情報を提供します。また、高齢者や障がい者等にも配慮して情報提供の方法を工夫する等、ユニバーサルデザインやバリアフリーの考えに基づき、情報を提供します。

【2 基本目標を構成する施策・事業の評価結果】

取組の基本方針	佐伯市					佐伯市社会福祉協議会					総合評価
	平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1 情報提供の充実	4.00	4				4.00	5				A
2 相談支援体制の充実	3.75	6	2			4.00	5				A
3 福祉サービスや健康づくり事業の充実	3.60	3	2			3.33	3	2	1		A
4 権利擁護体制の充実	3.40	2	3			4.00	2				A
合計	3.68	15	7			3.78	15	2	1		A

【評価区分】

【総合評価基準】

A	4点	順調に推移	平均点3.25以上
B	3点	概ね順調に推移	平均点2.5以上3.25未満
C	2点	やや不足していた	平均点1.75以上2.5未満
D	1点	不足していた	平均点1.75未満

【3 取組の基本方針を構成する主な取組の評価結果】

○佐伯市

No.	施策名	担当部署	令和5年度の具体的な取組	効果と反省	評価	備考
45	保健福祉全般に関わる相談支援体制の整備・充実	福祉保健部	<p>【高齢者福祉課】 市内3圏域の包括支援センターでの相談件数は増加をたどっており、直営包括である第1圏域の相談員他センター職員は、第2・3圏域の包括支援センターの後方支援を行いながら、相談しやすい体制づくりに取り組んできました。困難案件や複合的な課題を抱える案件にも、関係部署・関係機関と連携を取りながら対応しています。</p> <p>【障がい福祉課】 佐伯市障がい者相談支援センター「すきっぷ」で様々な相談を受け付け必要な支援につなげています。また、各地区に相談員を設け身近な相談に応じています。</p>	<p>【高齢者福祉課】 困難案件や複合的な課題を抱える案件では、解決までに時間がかかることもあり、今後さらに増えていくと予想されるため、令和6年4月から創設された福祉の総合相談窓口や間系部署・関係機関とさらに連携を深め、包括的な相談支援体制の整備に取り組んでいきます。</p> <p>【障がい福祉課】 「すきっぷ」の相談件数は増加しており総合的な相談窓口として役割を果たしています。今後は、一層の周知を図っていきます。</p>	A	
46	高齢者に関わる相談支援体制の充実（佐伯市地域包括支援センター）	高齢者福祉課	<p>市内3か所に設置された包括支援センターの相談件数は増加をたどっており、相談員のみでの対応は厳しい状況で、三職種の専門員や他職員も協力しながら相談対応を行い、迅速に対応できるよう取り組んでいます。</p>	<p>相談内容が高齢者本人のみならず、家族の事や多岐にわたる複合課題を抱えた案件も増えてきており、引継や解決に至るまで時間がかかっており、今後は関係部署・関係機関とさらに連携を深めていき、相談体制の整備に努めていきます。</p>	B	

○佐伯市社会福祉協議会

No.	事業名	担当部署	令和5年度の具体的な取組	効果と反省	評価	備考
28	社協だよりによる情報提供	地域福祉課	年4回発行しました。広報誌のタイトルを「ひとしづく」に変更、見出しを活用し、記事の見やすさを重視しました。	編集委員会の開催が少なく協議することが少なかった。来年度は編集委員を増やし、色々な意見を取り入れ、分かりやすい広報誌として情報発信を行っていきます。	A	
35	生活困窮者自立支援事業 (市受託事業)	地域福祉課	<p>パンフレット及びPRカードを作成し、広報や周知に努めました。</p> <p>家計相談支援機関などと連携し、債務整理や生活困窮者への包括的な相談支援窓口としての役割を果たしました。</p> <p>きずなファームやほっとカフェ(居場所の確保)の開催により、ひきこもり者支援を行いました。ひきこもり相談者への定期巡回訪問も行いました。</p> <p>企業でのワークチャレンジ等を実施し、きずなファームの収穫物の販売体験を行いました。</p> <p>令和2年度末をもって無料職業紹介の届出更新は行っていません。履歴者作成支援やハローワークへの同行により、就労に至ったケースが見られました。</p>	<p>今後もパンフレットやPRカードを作成し、広報や周知に努めていきます。</p> <p>相談者の自立支援の出口となる就労の場を確保するために、企業や関係機関との連携を深めていきます。</p> <p>ひきこもり者が安心して参加できるように声かけや見守りを引き続き行っています。</p> <p>就労体験先を広げるために今後も様々な企業や施設と連携を図っていきます。</p> <p>今後も、ハローワークとの連携を強化し、就労支援を積極的に行います。</p>	A	

46	成年後見制度の利用促進	地域福祉課	<p>(令和3年7月より、佐伯市成年後見支援センターを設立) 【主な事業内容】 ○普及啓発 ・パンフレット作成、配布 ・市報・社協だより、ホームページ等による周知 ・各種関係機関の会議に出席し、制度やセンターの普及啓発の実施。 ○相談対応 本人、親族、関係者等からの相談を受付、支援しました。相談実績：114件 ○利用促進 ・受任者調整会議：4回（5月、7月、9月、1月） ・事例検討会：1回（3月） ・市民後見人養成講座：10日間（9月～1月） ・受講修了者：11名（内名簿登録者 8名） ・フォローアップ講座：2回（8月、1月） ・延べ受講者数：23名 ○法人後見事業 ・受任状況 後見類型6件、保佐類型1件、終了3件 合計10件 ・延べ支援回数：592回</p>	<p>相談支援の窓口が設置されたことで、制度の利用促進につながりました。</p> <p>権利擁護を必要とする人を発見し、地域の専門職や関係団体と連携しながら、引き続き、制度の利用促進に取り組みます。 併せて、法人後見及び新たな担い手の育成に努めます。</p>	A	
----	-------------	-------	---	--	---	--

施策評価調書【令和5年度実施事業】

基本目標	計画頁	評価
4 安全・安心なまちづくり	P75～P80	A

関係課名	【佐伯市】建設部、社会福祉課、障がい福祉課、防災危機管理課、消防総務課、高齢者福祉課、学校教育課、子ども福祉課、地域振興課、コミュニティ創生課、福祉保健企画課、社会教育課 【社会福祉協議会】地域福祉課
------	---

【1 基本目標の基本的な考え方】

市民が安心して暮らすためには、防犯・防災対策も重要な課題です。子どもや高齢者、障がい者等を災害や事故・犯罪から守るため、地域の防犯・防災意識を高め、地域ぐるみの防犯・防災活動の推進に努めます。

【2 基本目標を構成する施策・事業の評価結果】

取組の基本方針	佐伯市					佐伯市社会福祉協議会					総合評価
	平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1 地域ぐるみの防犯・防災対策の推進	3.17	1	5			3.75	6	2			A
2 誰にでもやさしいまちづくりの推進	3.43	3	4			4.00	1				A
合計	3.31	4	9			3.78	7	2			A

【評価区分】

【総合評価基準】

A	4点	順調に推移	平均点3.25以上
B	3点	概ね順調に推移	平均点2.5以上3.25未満
C	2点	やや不足していた	平均点1.75以上2.5未満
D	1点	不足していた	平均点1.75未満

【3 取組の基本方針を構成する主な取組の評価結果】

○佐伯市

No.	施策名	担当部署	令和5年度の具体的な取組	効果と反省	評価	備考
63	佐伯市避難行動要支援者避難支援プラン(個別計画)の推進	社会福祉課	<p>避難行動要支援者名簿を市内全地区へ提供し区長会等で個別計画の作成を依頼しました。</p> <p>【令和2年度末数値】 同意者数:1,650人 作成者数:915人 作成率55.5%</p> <p>【令和3年度末数値】 同意者数:1,568人 作成者数:906人 作成率57.8%</p> <p>【令和4年度末数値】 同意者数:1,362人 作成者数:882人 作成率64.8%</p> <p>【令和5年度末数値】 同意者数:1,208人 作成者数:825人 作成率68.3%</p>	<p>個別避難計画の作成については、区長会に依頼してきましたが、作成率は横ばいの状況が続いており、現状のやり方では限界があると感じています。そこで、民生委員児童委員協議会に協力を依頼し、個別避難計画の作成に民生委員の協力を得られることとなりました。また、避難支援者になることの負担が大きいとの声を受け、避難支援者への保険の検討を開始しました。</p> <p>また、専門的な支援が必要となる方については、福祉保健企画課が中心となり、福祉専門職との連携し、モデルケースの作成を開始しました。</p>	B	
69	公共交通網の確保及び生活交通体系の構築の検討	地域振興課	<p>引き続きコミュニティバスの運行を継続しました。</p> <p>宇目地域では、民間バス路線が路線休止となる宇目地域から豊後大野市(旧三重町)間の代替として、デマンド運行の実証実験を開始しました。</p> <p>直川地域では、コミュニティバスの利用促進のための動画作成に携わりました。</p> <p>また、地域公共交通計画を策定し、佐伯市における公共交通の分析と課題の抽出を行いました。</p>	<p>利用者の利便性の向上が図られました。</p> <p>令和6年度に佐伯市地域公共交通利便増進実施計画を策定し、市民のニーズに応じた具体的な公共交通網の見直しを図ります。</p> <p>また、運転士不足や地域の高齢化といった課題解決のため、ささえあい交通推進事業や自動運転社会実装推進事業の取組を進めていきます。</p>	B	
71	障がい者に配慮した公共施設の点検整備	障がい福祉課	<p>自立支援協議会権利擁護部会にて、不便スポットの改善にむけて、佐伯駅での、現地調査及び今後の施設利用について意見交換を行いました。</p>	<p>公共施設等の設備の点検や改善箇所を随時確認し、施設のバリアフリー化について、関係部署に働きかけていきます。</p>	B	

○佐伯市社会福祉協議会

No.	事業名	担当部署	令和5年度の具体的な取組	効果と反省	評価	備考
55	新たな移送サービスの検討	地域福祉課	<p>全国移動ネットのスーパーバイザー派遣事業で、弥生、直川がモデル地区となり、プログラムに沿った支援を受けました。地域により様々な仕組みが異なるため、進めていく中で、多くの課題に直面しました。</p> <p>行政を中心に公共交通会議やタクシー協会を訪問しました。課題をひとつずつクリアしながら、次年度は、実証実験の実施に向け、慎重に話し合いを進めています。</p>	<p>弥生地区が4月、直川地区が6月に実証実験を行う予定です。</p> <p>次年度も引き続き支援団体に寄り添い、行政と協力しながら取組を進めていきます。</p>	A	